

# 要 望 書

## 国保坂下病院の機能 の存続について

平成29年2月

坂下地区区長会・山口地区区長会・川上地区区長会  
坂下まちづくり協議会・川上まちづくり推進協議会  
山口まちづくり協議会・馬籠地域づくり推進協議会  
南木曾町地域振興協議会長会議

中津川市長 青山節児 様

立春の候、貴職には益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

平素より当地域に対しまして格別なるご高配を賜りますこと厚くお礼申し上げます。

さて、昨年12月に「やさか地区区長会及び関係地区まちづくり協議会からの意見書・要望書」、「市民からの意見」などを踏まえ、「中津川市公立病院に関する方針」を定めていただきましたことには感謝を申し上げます。しかしながら方針に基づく具体的事例を踏まえ、多くの地域市民からも懸念や意見が提示され、やさか地区区長会及び関係地区まちづくり協議会で協議を重ねた結果、次のとおり意見をまとめました。

当地域の切なる意見に対しまして、特段のご高配を賜りますよう要望いたします。

平成29年2月吉日

坂下地区 区長会長

林 文俊



坂下まちづくり協議会

会長 原



川上地区 区長会長

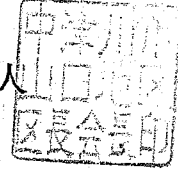
原 幹彦



川上まちづくり推進協議会 会長 堀田 時男



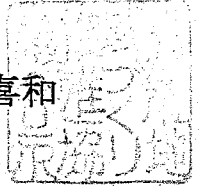
山口地区 区長会長 大脇 和人



山口まちづくり協議会 会長 園原 完



馬籠地域づくり推進協議会 会長 鈴木 喜和



南木曾町地域振興協議会長会議

会長 岡庭 緑朗



## 要望事項

# 国保坂下病院の機能

## 要望内容

「坂下病院に入院機能として療養病棟を残し、急性期及び急性期後の回復期病床を市民病院に集約する」と方針にありますが、これは「軽度な急性期・回復期」であっても坂下病院にての入院治療は、まったく出来ないことになり、治療として必要な検査入院なども出来ないこととなります。治療後の軽度な急性期・回復期入院、各種検査入院など出来るように、入院機能として「一般病床」は、残す必要があると考えます。また医師の招聘、現医師のモチベーション持続にも影響は大きいと考えますし、それは外来機能の診療科存続にも影響します。「一般病床」は老人保健施設移転による福祉と医療の連携にも大切だと考えます。地域市民が望む、安心安全な「病院と医師と患者(市民)の信頼関係」を築く「一般病床」を残した「国保坂下病院の機能」の存続を要望をいたします。

### 【国保坂下病院の機能】

	要望する機能
入院機能	一般病床 50床・療養病床 50床
外来機能	方針通り、現在の機能の継続をお願いします。
その他機能	救急診療・リハビリ・透析部門・健康診断（地域医療課） 老人保健施設を移転 80床

## 「一般病床」を要望する主な背景として

- ・平成 27 年度の坂下病院入院実績は、一般病床約 3 万人、療養病床約 2 万人と、一般病床の入院患者が多い。
- ・一般病床は、精神病床・結核病床・感染病床及び療養病床以外の病床であり、柔軟な処置対応ができる病床と考えます。
- ・眼科診療にて「白内障、緑内障」などの手術を実施し、日帰り帰宅が困難な患者が安静などから入院しているケースも多い。
- ・整形外科診療にて手術を実施し、日帰り帰宅が困難な患者が安静を兼ねて入院していたケースもある。
- ・肺炎での診療後、数日間入院にて安静治療継続が必要であり、患者には高齢者が多く、坂下病院にての入院の要望が高い。
- ・糖尿病の治療選択などのために、検査入院が実施されているが、これら検査入院は糖尿病などには大切であり、一般病床が必要です。
- ・老人保健施設は福祉と医療の連携であり市民の最大のメリットは、病院内にあることで受診でき、軽度の急性期なら入院治療できることにある。
- ・一般病床の無い病院では医師のモチベーションは低下し、患者(市民)との信頼関係も薄れ、経営改善に逆行となるものと考えます。
- ・一般病床のない病院では今後の医師確保は一層の困難が懸念される。
- ・軽度な急性期・回復期・各種検査などでの入院として、「一般病床」は、坂下病院の将来を考える時、大切な病床と考えます。